

ポルトガル月報

2011年9月号

(本報は当館が報道等公開情報より取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

主要ニュース

- 欧州金融安定メカニズム (EFSM) による対ポルトガル融資条件の緩和 (14日)
- ポルトガル銀行 (当國中銀) 及び国立統計院 (INE) によるマデイラ自治州の債務申告漏れ発表 (16日)
- 第66回国連総会でコエーリョ首相がスピーチ (24日)

内政

●コエーリョ首相による社会民主党青年部 (JSD) 等共催の夏期大学 (※) でのスピーチ (4日)

先月29日より、アルト・アレンテージョ地方の都市カステロ・デ・ヴィーデ (スペイン国境付近) で開催されていたJSD等共催の夏期大学が4日に最終日を迎え、社会民主党 (PSD) 党首でもあるコエーリョ首相がスピーチを行った。同首相は、これまでに発表された増税策に関し、財政状況の一層の悪化を防ぐために必要な措置である旨主張。さらなる増税は当面はないとしながらも、外的要因に左右されると含みを持たせる発言を行った。

(※) 第9回目の開催。JSD, PSDの他、フランススコ・サー・カルネイロ院及び欧州人民党が共催し、国内外の政治家や専門家を招き講演を実施。本年は、マリオ・ソアレス元大統領、アスンサオン・エステーヴェス議長、ガスパール財務相、ラホイ・スペイン民衆党 (PP) 党首らが“講義”を行った。

●第18回社会党 (PS) 党大会 (9~11日)

当国北部の都市ブラガ (ミーニョ地方) で開催された第18回社会党 (PS) 党大会は、最終日を迎えた11日、セグーロ書記長が閉会スピーチを行った。財政赤字及び債務上限の憲法への記載については言及を避けたが、ユーロ危機克服のためのユーロ共同債発行を党として支持すると表明。また、セグーロ書記長は4年後の総選挙を見据えながら、自身の理念である経済成長と汚職根絶について、党員に向け力強く訴えた。

●カトリカ大学による世論調査の結果発表 (19日)

現政権の実行力に関する全般的な評価では、肯定的な評価が32% (大変満足 (1%) + 満足 (31%)) であるのに対し、否定的な評価は46% (不満 (30%) + 大変不満 (16%)) に上った。増税策による犠牲の配分に対する見方が厳しく、現政権の具体的な実績評価においても、否定的評価 (55%) が肯定的評価 (31%) を大きく上回っている。ただし、今後の政権運営に関する期待感では、期待が持てると答えた者が37%に対し、悲観的だと答えた者は25%であった。なお、政党別支持率は下表を参照。

政党	支持率 (%) (総選挙時 (6月) 得票率)
社会民主党 (PSD)	43 (38.66)
社会党 (PS)	33 (28.05)
統一民主連合 (CDU)	7 (7.09)
民衆党 (CDS/PP)	6 (11.71)
左翼連合 (BE)	6 (5.17)

●RTP (国営放送) のコエーリョ首相インタビュー (20日)

コエーリョ首相は、6月の首相就任以来、初めてRTP (国営放送) のインタビュー番組に出演し、ポルトガルの財政再建の進捗状況等について約55分間語った。主なテーマは、マデイラ自治州の債務申告漏れ

問題、単一社会保障税（TSU）削減、付加価値税（IVA）の見直し、高速鉄道（TGV）建設中断、公営企業の民営化等であった。コエーリョ首相は、ギリシャが債務不履行に陥った場合、ポルトガルへの影響は必至であり、第2次支援要請の可能性は完全に排除できないと述べた。

●カヴァコ・シルヴァ大統領のアソーレス自治州訪問（20～24日）

カヴァコ・シルヴァ大統領は、2007年10月以来となるアソーレス自治州を公式訪問。サンタ・マリア島やグラシオザ島をはじめ計5島を訪問した大統領は、アソーレス自治州民のみならず、当地に移り住むことを決断した先人たちの貢献に敬意を表した。

外交

●コエーリョ首相の欧州訪問（1日）

8月31日のサパテロ・スペイン首相との二国間会談に続き、コエーリョ首相はベルリンでメルケル独首相と、パリでサルコジ仏大統領との会談に臨んだ。コエーリョ首相は、欧州3首脳との会談を通じて、ポルトガルが取り組む財政赤字削減策の進捗状況の説明、及びユーロ危機に対する欧州のメカニズムについて意見交換を行った。

●ポルトラス外相による欧州連合（EU）加盟国非公式外相会合への出席（2, 3日）

ポルトラス外相は、ポーランドのソポト市で開催されたEU加盟国非公式外相会合に出席。リビア及びシリア情勢、中東和平等について意見交換を行った。

●ルーラ前ブラジル大統領のポルトガル訪問（6, 7日）

ルーラ前ブラジル大統領は、カヴァコ・シルヴァ大統領との会談後、記者団に対し、ポルトガルとブラジルが一層強い関係を有するよう期待し、ポルトガルの発展のために協力したい旨発言した。さらに、両国の造船産業発展を見据え、経営難に陥っているヴィアナ・ド・カステロ（当国北部ミーニョ地方）にある造船所支援へのブラジルの強い関心を示した。また、6日夜には、コエーリョ首相、ポルトラス外相、ミゲル・ヘルヴァス国会担当相と夕食を共にし、両国間の貿易

関係強化に加えて、民営化が進められているポルトガル航空（TAP）に関し話し合った。

●ポルトラス外相のリビア電撃訪問（7日）

ポルトラス外相は、リビアを電撃訪問し、ベンガジでアブドルジャリル・リビア暫定国民評議会（NTC）議長らと会談。両国間の経済及び貿易関係の強化について改めて関心を示したポルトラス外相は、リビア復興に向けて引き続き努力を行う旨発言した。

●ラスムセンNATO事務総長のポルトガル訪問（8日）

ラスムセンNATO事務総長はポルトガルを訪問し、カヴァコ・シルヴァ大統領、ポルトラス外相、コエーリョ首相、エステーヴェス共和国議会議長、アギアール国防相と会談を行った。ポルトラス外相との会談では、海上攻撃支援部隊（STRIKEFORNATO）等のポルトガルへの配置について話し合われ、アギアール国防相との会談では、リビア情勢の他、ポルトガルの対アフガン作戦への参加について協議された。

●ポルトラス外相とヴェスターヴェレ・ドイツ外相の会談（9日）

ポルトラス外相は、ヴェスターヴェレ・ドイツ外相とベルリンで会談し、国連安全保障理事会（両国は非常任理事国）に関して意見交換を行った他、欧州及び国際問題の現状について話し合った。なお、当地「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙（11日付）によれば、会談後、ヴェスターヴェレ・ドイツ外相は、トロイカ合意（MoU）履行に向けたポルトガル政府の努力を賞賛。一方、ポルトラス外相は、財政赤字及び債務の上限を憲法で規定する案に関し、野党・社会党（PS）と協議する用意がある旨述べた。

●アンゴラとの査証協定の署名（15日）

外務省は、人的交流の容易化、及び経済関係の一層の発展を目的として、ポルトラス外相とシコティー・アンゴラ外相がリスボン市内で、より効率的な査証協定に署名した旨声明を発出。具体的には、現行1年の長期（労働）査証に関し、3年への延長、更新不可で、所要発給日数は1カ月以内。一方、現行1カ月の短期査証については、3カ月への延長、所要発給日数は1

週間以内となっている。また、当地「プブリコ」紙の取材によると、アンゴラ在住のポルトガル人は10万人以上で、ポルトガル在住のアンゴラ人は2万3500人。ポルトガルの主要貿易相手国の一つとして、経済的な結びつきは極めて強い。なお、シコティー・アンゴラ外相は、14～18日まで当国に滞在し、カヴァコ・シルヴァ大統領との会談等を行った。

●第66回国連総会におけるコエーリョ首相のスピーチ (24日)

コエーリョ首相は第66回国連総会でスピーチを行い、安保理改革、パレスチナ問題、ポルトガル財政再建の状況等について言及。安保理改革については、ブラジル、インド、アフリカ諸国の常任理事国入りを支持表明し、パレスチナ問題では、イスラエルとパレスチナ双方の交渉結果を見守る立場を明らかにした。また、ポルトガル財政再建の状況に関し、トロイカ合意(MoU)の着実な履行を改めて訴えた。

●ポルトラス外相の国連総会出席 (19～24日)

ポルトラス外相は、ニューヨークで開催された国連総会の開会式に出席。さらに、30以上の二国間外相会談を通じて、経済関係の強化やポルトガルへの投資について意見交換を行った。

●ポルトラス外相とクリントン米国務長官の二国間会談等 (25～27日)

27日、ポルトラス外相は、クリントン米国務長官とワシントンで約50分間会談し、欧州財政危機や中東問題を話し合った。会談後の共同記者会見で、クリントン米国務長官は、財政危機克服に向けたポルトガルの努力を称賛。中東問題においても、イスラエル政府の入植者住宅建設に対し、共に否定的な見解を示した。

ポルトラス外相は、米国の政府関係者や国会議員らとも会い、トロイカ合意(MoU)履行に向けたポルトガルの努力を強調した。

●シャナナ・グスマン東ティモール首相のポルトガル公式訪問 (26～29日)

グスマン東ティモール首相は、26日から4日間ポルトガルを公式訪問した。27日にカヴァコ・シルヴァ大統領、コエーリョ首相と会談し、両国間における

教育分野の協力関係等について話し合った。なお、グスマン首相は、コインブラ大学で名誉博士号を授与された。

経済

●トロイカによる対ポルトガル融資の正式承認 (2日)

先月実施されたトロイカ専門家チームによる第1回四半期評価作業の結果を受けて、EUはIMFと合わせたポルトガルへの第2回融資115億ユーロ(総額780億ユーロ)の正式承認を発表した。

●短期国債の発行 (7日)

ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、3カ月物国債の入札を実施。落札額は8億5400万ユーロ、落札平均利回りは4.959%(前回8月17日は4.854%)、応札倍率は2.2倍(前回1.8倍)であった。

●世界経済フォーラム発表の競争力ランキング (7日)

世界経済フォーラムが発表した「2011年版世界競争力報告」で、ポルトガルは前年より1つ順位を上げ、45位(142カ国中)であった。インフラ整備や先端技術、起業の際の手続きで肯定的な評価を受けた一方、労働者の採用及び解雇、公的資金の効率的運用、貯蓄率等では最低水準。なお、上位5カ国はスイス、シンガポール、スウェーデン、フィンランド、アメリカ合衆国で、日本は9位(前年6位)。

●7月の貿易収支 (9日)

国立統計院(INE)は、本年7月の貿易収支データを公表。輸出37億500万ユーロ(前年同月比8.9%増)、輸入49億2000万ユーロ(同5.9%増)であった。また、最近3カ月(5～7月)の場合では、輸出110億1410万ユーロ(前年同期比14.2%増)、輸入148億9770万ユーロ(同0.2%増)で、貿易収支▲38億8360万ユーロとなっている。

輸出入の品目別伸び率(前年同月比)は、以下のとおり。

輸出品目別：輸送機器関連品(+25.5%)、工業用品(+20.3%)、燃料・潤滑剤(+18.5%)

輸入品目別：燃料・潤滑剤(+28.6%)、工業用品

(+12.9%) , 食料品・飲料 (+3.3%)

[最近3カ月の貿易収支推移]

	5月	6月	7月	合計
輸出(百万ユーロ)	3715	3594	3705	11014.1
前年同月比(%)	21.9	14.5	8.9	14.2
輸入(百万ユーロ)	5400	4578	4920	14897.7
前年同月比(%)	15.4	▲ 17.4	5.9	0.2

●トロイカ合意(MoU)の第1回更新版の発表(13日)

財務省は、9月1日付けで更新されたMoUを公式サイト上に掲載。主な修正点・追加項目は、マデイラ及びアソーレス両自治州に対する財政管理(税収の見直し再検討、本土と自治州間の歳入配分の見直し、本土による監視強化、より厳しい債務上限の設定等)、ジェネリック医薬品の値下げ幅拡大、公営企業の再編計画(給与削減等)の提出、解雇補償に関する詳細決定等である。

●国際通貨基金(IMF)によるポルトガル主要マクロ経済指標見通しの下方修正(13日)

IMFは、ポルトガル主要マクロ経済指標見通しを発表。2011年の見通しに関し、個人消費(▲4.3%→▲4.6%)や投資(▲9.9%→▲11.4%)、失業率(12.1%→12.2%)等を下方修正した。

[IMFによる主要マクロ経済指標見通し]

	2011年 前回(%)	2011年 今回(%)	2012年 (%)
GDP成長率	▲2.2	▲2.2	▲1.8
個人消費	▲4.3	▲4.6	▲3.7
民間消費	▲6.8	▲4.0	▲4.6
投資	▲9.9	▲11.4	▲9.2
輸出	6.2	6.6	6.5
輸入	▲5.3	▲4.9	▲2.0
失業率	12.1	12.2	13.5

●欧州金融安定メカニズム(EFSM)による融資条件の緩和、及びポルトガル支援向け10年債の発行(14日)

欧州委員会(EC)は、EFSMを通じたアイルランド及びポルトガル向け支援融資の条件緩和を発表。ポルトガルに関し、金利は現在の5.7%から2.15

ポイント引き下げた約3.5%、平均返済期限は現在の7年半から12年半へ延長された。また、ECは、対ポルトガル支援融資の資金調達のため、EFSMを通じて50億ユーロ相当の10年債(金利2.75%)を発行した。

●8月のインフレ率: 2.8%(15日)

ユーロスタット(EU統計局)がインフレ率(消費者物価指数)を発表。ポルトガルは2.8%(前月比0.2ポイント減)、ユーロ圏17カ国及びEU27カ国は前月同様、各々2.5%、2.9%(共に暫定値)であった。なお、インフレ率の上位は、エストニア5.6%、スロバキア4.1%、オーストリア及びブルクセンブルク3.7%など。

[最近3カ月及び前年同月のインフレ率推移(%)]

	6月	7月	8月	前年8月
ポルトガル	3.3	3.0	2.8	2.0
ユーロ圏	2.7	2.5	2.5p	1.6
EU	3.1	2.9	2.9p	2.0

p = 暫定値

●マデイラ自治州の債務申告漏れ(16日)

ポルトガル銀行(当國中銀)及び国立統計院(INE)は、マデイラ自治州の債務申告漏れに関し共同プレスリリースを発表。2008~2010年の3年間における債務申告漏れは、総額11億ユーロ超に上る(下表参照)。同日、財務省もマデイラ自治州の件に関し、今次報告漏れ以外は認識しておらず、特殊なケースとする旨の声明を発出した。

[マデイラ自治州の債務申告漏れ]

	2008年	2009年	2010年
単位(百万ユーロ)	139.7	58.3	915.3
対GDP比(%)	0.08	0.03	0.53

●ポルトガル語圏アフリカ諸国(PALOP)の対ポルトガル債務(19日)

ポルトガル銀行(当國中銀)は、2010年12月末現在で、ポルトガル語圏アフリカ諸国(PALOP)の対ポルトガル債務が、2009年12月末時点と比較して12.9%増加し、18億1619万ユーロに上ると発表した。PALOPの内、アンゴラが全体の約6

0%に相当する10億8730万ユーロの債務を負っており、以下、モザンビーク（3億9463万ユーロ）、カーボ・ヴェルデ（2億222万ユーロ）、ギニア・ビサウ（9507万ユーロ）、サントメ・プリンシペ（3697万ユーロ）となっている。

●短期国債の発行（21日）

ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、3カ月物及び6カ月物国債の入札を実施した。3カ月物の落札額は10億ユーロ、落札平均利回りは4.931%（前回9月7日は4.959%）、応札倍率は1.7倍（前回2.2倍）。6カ月物の落札額は2億5000万ユーロ、落札平均利回りは5.249%（前回8月17日は4.989%）、応札倍率は4.5倍（前回7.2倍）であった。

当地「ディアリオ・エコノミコ」紙によれば、6カ月物の落札平均利回り（5.249%）は、ポルトガルが欧州連合（EU）及び国際通貨基金（IMF）へ財政支援を要請した4月初旬以降で、2番目に高い数値となった。

●欧州金融安定メカニズム（EFSM）による対ポルトガルと対アイルランド向け融資（22日）

欧州委員会（EC）は、対ポルトガル及び対アイルランド向け融資として、総額40億ユーロの15年債を発行した旨を発表。欧州金融安定メカニズム（EFSM）を通じて、各国20億ユーロずつ融資を受ける。なお、償還期限は2026年9月4日、金利は3%。

[トロイカによる対ポルトガル融資状況]

	機関	融資日	融資額	金利
第1回融資	EFSM（5年債）	11.6.1	4750.0	4.90%
	EFSF（5年債）	11.6.29	2525.3	2.75%
	EFSM（10年債）	11.5.31	1750.0	5.65%
	EFSF（10年債）	11.6.22	4602.4	3.375%
	IMF	11.5.24	6307.7	変動
第2回融資	IMF	11.9.14	3972.2	変動
	【次号以降掲載】			

（出典：ポルトガル国庫公債管理庁2011.9月報）

※融資額（単位）は百万ユーロ

●2011年上半期の財政赤字（30日）

国立統計院（INE）は、2011年の財政赤字に関するデータを公表し、本年上半期の財政赤字は約69億9540万ユーロで、対GDP比8.3%であることが判明した。トロイカ合意（MoU）によれば、ポルトガル政府は2011年の財政赤字（対GDP比）を5.9%へ下げなければならない。

さらに、マデイラ自治州の債務申告漏れの影響により、2010年の財政赤字（対GDP比）が、9.1%から9.8%へ修正された。

社会・その他

●国内主要カジノの減収（1日）

国内のカジノを運営・管理するエストリル・ソル・グループによると、エストリル、リスボン、ポヴォア・ド・ヴァルジン（ポルト県）の3カジノを合わせた収益は、2011年第1四半期で1億5860万ユーロとなり、前年同期比で910万ユーロの減収となったことが判明。本件を取材した当地「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙は、財政危機の影響による内需の冷え込み、金利の悪化、高い失業率等が減収の原因と分析している。

●国内サッカークラブの外国人補強策に対するカヴァコ・シルヴァ大統領の批判（6日）

カヴァコ・シルヴァ大統領は、先月コロンビアで開催された20歳以下サッカーW杯で準優勝を果たした代表選手及び関係者への叙勲式（ベレン宮殿）において、「この代表チーム（の業績）は、現在のポルトガルサッカーに何か誤りがあることを示している。それは国内でプレーする選手の50%以上が外国人だという事実である」と発言し、過度な外国人補強策を批判した。当地「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によれば、今シーズン（2011/2012）の国内リーグに登録されているポルトガル人選手184人に対し、外国人選手は254人。また、主要3クラブに所属するポルトガル人選手の数、ベンフィカ7人、スポルティング7人、FCポルト4人となっている。

●ポルトガルを代表する料理（11日）

当地「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によると、5月7日～9月7日までインターネットやフェイスブック等を通じて、ポルトガルを代表する料理について投票が行われた結果、カルド・ヴェルデ（スープ）、海鮮リゾット、イワシの炭焼き、パステル・デ・ベレン（スイーツ）等7種類が選ばれた。

●国内で最も価値のある商業スペース (20日)

当地「ディアリオ・デ・ノティシアス」紙によれば、クッシュマン&ウェイクフィールド (C&W) が発行する半期報告書「マーケットビート」で、リスボン市のシアード地区がポルトガル国内で最も価値のある商業スペースになったことが判明した。1㎡当たりの月々売り上げは80ユーロ。一方、長年トップを誇ってきたリベルダーデ大通りは、同売り上げ72.50ユーロとなっている。ポルトでは、サンタ・カタリーナ通りがトップで、同売り上げ45ユーロ。

●米脱獄囚が41年振りに逮捕 (26日)

米国ニュージャージー州の刑務所を1970年に脱獄したジョージ・ライト受刑者が、リスボン郊外でポルトガル当局により逮捕された。同受刑者は、第2次世界大戦の退役軍人殺害で30年の実刑判決を受け服役中であったが、脱獄後はデトロイトへ移り、黒人解放軍に参加。模範生だったという。1972年、マイアミ行き旅客機（デルタ航空）を集団でハイジャックし、アルジェリアへと逃亡。その後行方が分からなくなっていたが、最近になって米国に住む親族への不審な電話記録が検知されていた。

●シザ・ヴィエイラ氏が国際建築家連合 (UIA) 金賞を受賞 (27日)

ポルトガル建築界を代表するアルヴァロ・シザ・ヴィエイラ氏 (1933-) が、東京で催された国際建築家連合 (UIA) 授賞式で金賞を授与された。通信社ルーザの取材に応じた同氏は、大変光栄な賞であると喜びを語った。なお、現在はポルト大学建築学部教授を務めており、高松宮殿下記念世界文化賞 (1998年)、プリツカー賞 (1992年)、ウルフ賞芸術部門 (2001年) 等の受賞歴を持つ。